

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
鳥取大学医学部付属病院第2立体駐車場

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
<b>2 温熱環境</b>									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
<b>3 光・視環境</b>									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
<b>4 空気質環境</b>									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視									
2 喫煙の制御									
<b>Q2 サービス性能</b>					0.43				<b>2.7</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.5</b>	0.40				<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.50				
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画				3.0	1.00				
1.3 維持管理				<b>2.0</b>	0.50				
1 維持管理に配慮した設計				2.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30				<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.63				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.38				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.40				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		手摺(20年)		3.0	0.40				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		ALC アクリル系吹付けタイル(20年)		5.0	0.20				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	-				
2.4 信頼性									
1 空調・換気設備									
2 給排水・衛生設備									
3 電気設備									
4 機械・配管支持方法									
5 通信・情報設備									

<b>3 対応性・更新性</b>			2.7	0.30		-	2.7
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30		-	
1 階高のゆとり			1.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率 0.16	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1 空調配管の更新性			-	-		-	
2 給排水管の更新性			-	-		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.25		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.25		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.50		-	
6 バックアップスペースの確保			-	-		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.57		-	2.2
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30		-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			1.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-		-	2.7
<b>LR1 エネルギー</b>			-	-		-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-		-	-
2 自然エネルギー利用			-	-		-	-
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = -	-	-		-	-
4 効率的運用			-	-		-	-
集合住宅以外の評価			-	-		-	-
4.1 モニタリング			-	-		-	-
4.2 運用管理体制			-	-		-	-
集合住宅の評価			-	-		-	-
4.1 モニタリング			-	-		-	-
4.2 運用管理体制			-	-		-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.50		-	2.6
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水			-	-		-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60		-	2.4
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.14		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.29		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.29		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.29		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	1.00		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	-		-	
3 冷媒			-	-		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.50		-	2.7
1 地球温暖化への配慮			-	-		-	-
2 地域環境への配慮			2.8	0.50		-	2.8
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.6	0.50		-	2.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-		-	
1 騒音			-	-		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.67		-	
1 風害の抑制			-	-		-	
2 砂塵の抑制			3.0	1.00		-	
3 日照阻害の抑制			2.0	0.33		-	
3.3 光害の抑制			2.0	1.00		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	-		-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	-		-	